

僕の欠片

九重 裕人
kokonoe hiroto

何処まで幸せかな？

好きな人がいる　それが幸せ

その人の顔を見て好きだって伝えることができる　もっと幸せ

好きだって伝えた相手から好きだって言ってもらえる　もっともっと幸せ

その人を僕だけの物にできる・・・幸せかな？

君がいつ何をするかなんて関係ないって

ただ一緒にいる時間を楽しんで愛し合っている方が清々しい

縛ろうとしだしたら、そこから崩れ出す

君といるとおかしくなってしまうよ

そんな不安を打ち明けると、君は僕に触れ

「それが恋なの」と微笑みかける

これが恋なのか

それなら僕も答えよう

彼女が「壊れてしまいそう」と僕に囁く

壊れちゃえ

きっとこれがお互いの為

そう言って別れたけど

楽しい事なんて何もないよ

雨も日のお散歩も

夜の探検も

今では恐怖と憂鬱しか感じない

君は世界は素晴らしいって言ったけど

素晴らしいのは君が触れたものだけだった

あんなに痛かったのは

僕達が複雑に絡み合っていたから

僕達はただ手を繋いでいた訳ではない

だからすぐ離す事が出来なくて

強引に引っ張ったり千切ったり

いっぱい傷つきながらじゃなきゃ

離れられなかったんだ

一緒に歩いてくれるかな？

もし君が望んでも

俺についてこいなんて言いたくない

僕が君と歩く事を望んだように

君にも僕と歩く事を望んで欲しいんだ

僕は支配なんてしたくない

求めあいたい

もし支配しなえければ離れていってしまうなら

そんな者いない

君の魅力

僕が君を好きになったのは君が好きって言ってくれたからじゃないよ

僕も好きって言えば君が受け入れてくれるって分かっていたからじゃないよ

僕は恋する君が好き

恋する君の少女の様な笑顔が好き

それを僕に向けて見せてくれるのだもん 好き

好きにさせようなんて考えなくていい

頭で考えて作る魅力なんて

君が持っている魅力には敵わないから

恋は考えてするものではない

墮ちていってしまうもの

理性を失った時、それが始まりの合図

理性を取り戻した時、それが終わりの合図

君がいれば怖くないよ

人ごみが嫌いな僕

他人が怖い僕

そんな僕がどこに居ても笑っていられたのは

君しか見えていなかったから

ねえ、髪切ったの

かわいいね

ねえ、ネイル行ったよ

うん かわいい

ねえ、この服どうかな？

すごく可愛いよ

ねえ、なんでいつも同じ反応なの？

いつでもかわいいのは嬉しそうな君の笑顔だから

太陽は、光を浴びる喜びを教えてくれた

光に包まれる暖かさを教えてくれた

それと同時に決して辿り着けない神々しさを見せつけた

軽快に光り続け僕を嫉妬させた

そんな僕に気付いたのか

時より僕から身を隠し

輝きが永遠でないかのように演出した

そして僕が演出に欺かれた事を確認すると

また光を流し込む

でも毎回同じでは僕も気付くよ

そう言うと彼女は雨を降らせた